第１回安来市適正配置審議会　議事録

１　審議会日時　令和４年７月６日（水）
２　開催場所　　安来市役所２階　201・202 会議室
３　出席者等
（委　　員）上田　裕太、田邊　憲明、加藤　寛通、恩田　集司、川上　通子、江戸　宣文（欠席）
原　義昭、大西　啓治、奈良井　丈治（欠席）、中尾　美樹夫、本山　禎彦、北川　正幸
小松原　克己、作野　広和、米田　健、池田　さゆり、田淵　秀喜、伊達　紗由里
板垣　学、福井　香衣
（事 務 局）
教育長　　秦　　誠司　　教育部長　　原　みゆき　政策推進部長　宇山　富之
教育総務課長　遠藤　浩司　学校教育課長　三保　貴資　地域振興課長　石井　美佐子
教育総務課係長　青戸　かおり　学校教育課係長　佐伯　由里子
地域振興課係長　渡邊　悟史　　教育総務課主任　森脇　卓哉
教育総務課主任　岩見　佳奈子
４　次第
（１）　開　会
（２）　あいさつ
（３）　安来市小中学校適正配置審議会　概要説明
（４）　委員紹介
（５）　会長及び副会長選出
（６）　諮　問
（７）　説明
1）安来市小中学校適正配置基本方針【資料 6】
2）小中学校適正配置基本方針説明会【資料 7】
（８）　意見交換
（９）　今後の予定
(10)　閉　会
５　内容

（1）開会

（2）教育長あいさつ

現在安来市では、田中市長の掲げるスローガン、次の世代につなげる安来市づくりをオール安来で取り組んでいるところである。

学校教育についても、社会の急激な変化や、次の世代を担う安来の子どもたちに必要な資質、能力を達成するためには、小中学校の適正規模適正配置の検討は、喫緊の課題としてとらえている。

このような情勢の中、教育委員会として、昨年度、教育政策推進会議にて、安来の子どもにとって最

適な学びの環境はどうあるべきかの視点を基底に据え、検討をしていただき、学校の適正規模適正配置を考える際の具体的な視点や理念、目標、推進上の留意事項等について、安来小中学校適正配置基本方針（提言）をいただき、総合教育会議等の審議を経て、教育委員会で決定し、3月の市議会全員協議会で了承を得、その概要を、3月に市民の皆様にお知らせしたところである。

今回は、その基本方針を受け、本日本審議会に、安来市小中学校適正配置基本計画（案）の策定について、諮問させていただく。

最終的に基本計画に関する答申をいただき、その後教育委員会が基本計画を策定していく。

あわせて、教育委員会では、基本方針について、市民の皆様に説明会を開催しており、すでに2回各地域を回らせていただいた。適宜、皆様方にもその様子をお知らせさせていただく。

この検討は喫緊の課題として、丁寧に、着実に進めていく。

委員の皆様方には、それぞれのお立場から、積極的にご意見をいただくことをお願いし、始めのご挨拶とさせていただきたい。

（3）概要説明

市内には小学校17校、中学校5校があり、それぞれの学校は、各地域で大切にされ、特色ある教育活動が展開されながら、よき伝統と校風が作られている。

しかし、現在の子どもたちが成人するころの社会は、急激な技術革新等により、社会状況は大きく変化していると予測される。

そのため、育成すべき資質、能力を見据えたとき、学校の適正規模適正配置の検討は、喫緊の課題であり、安来市教育委員会として、次の世代を担う子どもたちにとってよりよい教育環境づくりのため、安来市立小中学校適正配置基本方針を策定したところである。

そして、令和4年度より、安来市小中学校適正配置審議会を立ち上げ、基本計画を策定していく。本日お集まりいただいた皆様には、この審議会の委員として、基本計画の策定にお力添えをお願いしたい。

なお、皆様にご協議いただく基本計画の内容については、この後、諮問のところで説明する。

資料2より、適正配置審議会は、条例に基づき開催される、原則公開の会であり、第3条1項には、委員は20名以内で組織するとしている。委員の皆様は、第2項の（1）から（5）までのカテゴリーからの選出としている。

なお、同条第3項に委員の任期は2年とし、とあるが、2年間ということではなく、諮問から答申をいただくまでの間を、今回の任期と考えている。

資料3より、年間スケジュールについては、月1回程度の開催を予定しており、前半は、昨年度に議論された基本方針の説明、そして後半は、基本計画（案）についてご協議いただき、答申に向けた議論をいただくことになると考えている。

なお、これはあくまでも予定（案）であり、今後の進捗の具合では内容が変更されることもあると考えている。

（4）委員紹介

委員、事務局職員が順次自己紹介

(5) 会長及び副会長選出

〇会 長 選 出：立候補を募るが、立候補者なし。推薦により選出
　会　長―作野委員
〇副会長選出：会長の推薦により選出
　副会長―川上委員

(6) 諮問

教育長が諮問書（資料 5）を読み上げ、会長へ渡す。

(7) 説明

資料 6、資料 7 により学校教育課長、教育総務課長が説明。
〇なぜこの検討が必要か？
　グローバル化、情報化、急激な技術革新などが目覚ましく進む一方で、人口減少、少子高齢化などの課題も生じ、社会は急激に変化している。このような中で、教育の在り方も新たな事態に直面しており、子ども達には、様々な課題を解決しながら未来を生き抜いていく力をつけてあげなければならない。次の時代を見据え、子ども達にどんな教育が必要であるか、よりよい教育環境とはどんなものであるかを真摯に問い直す視点から、これからの学校の適正配置について検討していくものである。
〇基本方針の４つの視点
（１）令和の時代に生きる子どもの「育ち」「学び」を支える視点
・安来市の良さや特徴を活かしながら子ども達の生きる力を養うために･･･確かな学力を養う「主体的・対話的で深い学び」。子ども達が受け身でなく、積極的主体的な態度で学びに向かう学習環境を整え、最善解や納得解を導き出す力、新しい価値を創造する力を養う。
・安来市の児童生徒の現況･･･全国学力・学習状況調査結果、児童生徒数の推移。
・安来市が目指す教育に向かって、現状のメリット、デメリットを多面的に考えたとき･･･今のまま「で」よいと、問題を先送りにはできない。今のまま「が」よいのか、「変えた方」がよいのか。

（２）学校と地域の協働についての視点
・よりよい学校教育を通じてよりより社会を創る･･･「社会に開かれた教育課程の実現」。学校と地域が目指す子ども像を共有し、協働しながら、子ども達の将来を見据えた支援へ。
・学校運営協議会（コミュニティスクール）設置の検討。

（３）学校施設の整備・管理についての視点
・市内小中学校の施設のうち、築後３０年以上が７５％。
・学校施設の長寿命化計画･･･安全安心を最優先に、施設面において快適な教育環境の整備も重要な視点。

（４）安来市の実態に応じた規模･配置についての視点

・安来市内の小中学校の学級数の現状･･･今後も児童数の減少が見込まれ、長期的視点での検討が必要。

・適正規模（クラス数）の基準･･･「小学校の１学年の児童数は１０人以上の単式学級」、「小学校３年生以上の複式学級の児童数の下限は再編を考える場合には１０人」「中学校の１学年は２クラス以上」を基本に検討するが「中山間地域においては慎重に検討を進める」。

・適正配置（通学距離）の基準･･･「小学校で概ね４㎞以内」、「中学校で概ね６㎞以内」、「通学時間は小中学校とも概ね１時間以内」とする。また「遠距離通学における交通手段の確保と支援策の検討」。

・教育における小中間の円滑な接続を目指す･･･小中一貫教育について多方面から検討。

〇今後のスケジュール

審議会での検討、アンケート調査、パブリックコメント、地区説明会等の実施、庁内での検討

→　基本計画の策定（令和５年度中旬）→　実施計画（個別の校区、学校の詳細）の策定

(8) 意見交換

（会長）

先ほどの説明に対して、ご意見やご質問、皆様が、学校や地域、家庭等で活動されていることなどお考えになっていること、体験されたこと等、委員全員にご発言いただきたい。

（委員）

・学校の設備がかなり老朽化している、多分ここは待ったなしのところで、そこの中で安全に子どもたちがちゃんと学べる環境を残していくと考えた時に、これだけ老朽化しているものを、どこか整理していかないといけないのではないかと思う。

・複式の良さもたくさんあったり、大きい学校の良さもたくさんあったりすると思うが、今後いろんな子どもたちのことを考えていく上で、やっぱり若い保護者さんの意見もたくさん吸い上げて、やっていただけるとよい。

・普段から、交流センターの館長と連携をしたりしながら地域のことを、地域と学校の連携もしている。その中で、大人自体、周りの地域の者たちも、学校に対しての意識を連携しながらレベルアップしていかないといけないというところも、一つ重要な視点だと思う。

・この後の進め方に関しても丁寧に進めていただきたい。

・現場の先生の意見も聞きたい。

・校舎も築年数が経過しており、問題を抱えている。

・方針の 4 つの視点が、いろいろなことを網羅しているので、どこをきっちりやっていくべきなのか難しい。

・この令和の時代、新しい急激な変革の中で、大きく環境が変わる中で、予測もなかなかできない将来に向けて、子どもの適性というところも大事にしながらどういうことをやるのか、適正な規模で学習をしていくのはどういうことが大事なのか。ケースバイケースもあったり、いろんな地域の環境等もあったり、一つの考え方にまとめていくのは難しいところ。

・教育というのは、不易と流行の部分があって、昔からやってきていることで異議がない部分もあれば、やっぱり変えていかなければいけないことは変えていかないといけない部分もあるので、その辺の

整理も必要。
・児童生徒数の減少、それから学校施設の老朽化というところから、統廃合も含めての小学校の適正配置というのが必要かと思う。一方で、朝、夕方の子どもたちの挨拶が聞こえなくなることが地域の元気がなくなっていくことにつながるのではと心配される。
・この会議というのは統廃合とか規模を縮小するということを前提とした会議ではないと聞いていたが、どうしても、やっぱりそこに結びついてしまっているように聞こえた。
・この基本方針の中に書いてあるように、適正配置の議論の進め方については、十分な時間と協議を行うこと、多くの保護者や地域の声が反映できる仕組みにすること、情報をきめ細かく提供することお願いしたい。
・方針の四つの視点について、今の規模の中で、そういう視点で変えていかなければいけないというところが、なかなか結びつかない。小規模学校ではそれができないのか、あるいは大規模であるとできるのか。
・実態として他地区の学校へ通学している家庭もある。今の時代になって、地域の人に聞いても違和感がない。ほとんど全員がスクールバスで学校まで来るので地域の子どもが道路を歩いている姿を見ない。ということは、地域の皆さんは、子どもはいないものだなと思ってしまっている感が強いというふうに感じる。
・小学校のふるさと教育で、毎年、何回か子どもたちが地域へ来る時、お年寄りと一緒に交流している。またマラソン大会のときは、地域の皆さんが出て、応援をする。それが子どもとふれあう唯一である。
・社会科で農業体験を一緒にしたが、意見を言う子は言うが、元気がない。
・息子は地元へ帰らず、大きい学校で子どもを育てたいという。今の子どもたちを見ると、ちょっとでも多いところがいいのかなと思う。
・地元に元気がなくなるのは、小学校の子がいなかったり、子どもたちの声が聞こえないというのが、中山間地が廃れる一つの原因ではないかと思う。
・地域住民の方に十分、説明がなされて、みなさん了承してもらって、次につながるような、やり方をしなくてはいけない。
・この議論の本質は、人口減だろうと思う。人口減をどうやって止めるか。この観点が非常に重要だろうと考える。この適正配置の検討の部分で、人口減を止める手だて、秘策になるものができればよい。
・よその地域からでも、安来は非常に暮らしやすくて、ここの小学校は行きやすくて、この中学校は通いやすいから、ぜひ、安来に来て欲しいよと、こういうような環境を作るという視点からやっていただきたい。
・今は、インターネット等で、学習をしたり、働いたりする時代で、コミュニケーション力って必要ですかという質問をうけたが、やっぱり実際に人と人が出会って、そのうえで関わりあうということは必要だと考えた。
・人との関わりをどう広げるか、どう深めるか、というようなことを考えていくと、適正規模ということを考えておかないといけない。
・大きい学校で、切磋琢磨するたくましさが身につくということもあるが、小さい学校だからこそ地域の方に助けてもらいながら、進めていく良さもある。学校の果たす役割が、地域に対してすごく大きな存在だということを感じている。

・昨年度基本方針の策定にあたり、皆さん方から出ているような意見を相当の時間をかけて議論した。
・小中学校ということになっているが、実は地域等を含めると、認定こども園、幼稚園、それから安来市には二つの高校がある。そのところも含めて、この安来市の教育とはどうあるべきいうところも、考えていく必要がある。
・今回我々が、この諮問を受けて、議論をするわけなので、我々がしっかりとした方針、計画を作り上げて、少々状況が変わってもこれがぶれないような、形にまとめ上げられたらと思っている。
・子どもたちが地域の人たちと関わっていくことで、人とのコミュニケーション力を育成することや、地域で丸ごと子育てをしていくために、地域コーディネータが校区ごとに配置され活動している。
・この安来のよさを知ってもらって、安来に住んでもらう、定住してもらって、子育てしやすいなって思ってもらうというところで、各家庭からの問題もあるのではないかと思う。
・子どもたちは家庭から小学校、中学校に送り出されている。学校という社会に出るときに、どれだけの生きる力があるのかが大切で、子どもたちの環境をよくしていきたいという点からも、各家庭にも、この会に着目してもらわないといけないのではないか、興味を持ってもらうってことが大事である。
・学校の教育の現場で、しっかりと指針を立てていくっていうところは、とても重要であるが、家庭から子どもたちは、送り出されているので、安来市内に暮らす生活がベースにある。暮らし、食生活、睡眠などのベースが、子どもたちが健康に暮らせるために大事であると考える。
・児童数、地域数、環境の違いがある中で、私たちはどうしていくべきなのか広い視点に立つことが大事である。
・住みやすい街、安来市っていいよねって、安来市の教育って素晴らしい、とっても暮らしやすい、教育にすごく力を入れている、教育のためには地域がすごく力を入れてくれている、そういったところを見える化をすることが大事である。
・コロナ禍で工夫して頑張っている子どもたちの環境をよりよいものにできるように、また各家庭にもっとこの議論に興味を持ってもらえるような会になるとよい。
・学校が統廃合、廃校になると、通った学校の生徒は、非常にショックが大きい。結局、どんどん奥のほうの人が減ってきて、これ以上学校もなくなっていくと、すたれていく状況になっていくのではないか。
・学校の存続というのは、まさに地域の存続に直結しているのではないか。適正配置というのは教育の問題だけではなく地域、また安来市をどうしていくかということも、一緒に考えながら、検討していくべき。
・小規模、大規模、小学校を残す、統合するっていうのは、どちらもメリットデメリットがあって、価値観の問題で、どちらがいいということではないが、より多くの市民の皆さんの納得が得られる形の計画になればよい。大人が考えるべき問題と説明があったが、まさに私たちがその答えのない問題を突きつけられて、生きる力が試されているのではないかと思う。
・地域では、統合した方がいいじゃないか、という方がいる。小学校がなくなればもう地域がなってしまうという方もいる。
・子どもの声であるが、小学校から中学校行った時に、人数が多かったので楽しかったと言っていた。また、イエローバス通学は時間がかかったと言っていた。生活時間を考えて、遠くの学校に行かないといけない場合は、学校の始業時間を遅くするなども検討があってもよい。小規模の中学校の部活に選択

肢がないことを実感した。
・保育園のお母さんたちの意見も、ぜひとり入れて、将来を考えていけたらよい。

（会長）
まず、昨年度策定した、適正配置基本方針の原案に当たるものを、教育政策推進会議で検討させていただいた。決めつけるのは非常に問題があるということで、如何様にでもとれるように、しかし論点は明確にしている。
安来のような、中山間地域を含む地域において、例えば学校は、小規模な学校、山佐が広瀬に出る、広瀬が小さくなったときどうするか。そうすると、また荒島とか安来と統合する。
しかし、それは安来からも松江や米子に人が出るということで、これは鳥取や島根から他所へ人が出る構造と全部、相似関係にあるというように思う。本質的には、その向きを逆向きにすべきいうふうに思うし、そういう学校の存続が地域の存続に直結すると、皆さんそうお考えですので、おそらくそうである。
一方で、いろんなところに四つの論点、本質でないと言われた方もあったが、かなり本質的に整理させていただいた。市や町によっては、複式学級ができるから、それを解消するという一点張りのところもある。そういうところに比べたら、安来市はかなり慎重に議論していると思う。
いろんな見方ができて、重要な判断を下さないといけないというのは、皆さんが言われる通りだと思う。
私も教員なので、人数や規模により、やりやすい、やりにくいはあるかもしれない。ただし、どういう規模であっても、いい教育をするのは教員の使命である。先生方は、そういう現場でやっているので、あまり規模についてどうこうとは言えないのではないかと思う。いろいろな事をトータルで考えなければいけないと思って聞かせていただいた。
（会長）
今日、委員が発言した質問で、事務局の方で今日の時点で回答できるところがあればお答えいただいて、他を次回以降、順次ご説明いただきたい。
（事務局）
先ほど質問のあった耐震についてはどうなのかということについてお答えする。確かに築年数が経っているが、リフレッシュや改修工事はすでに並行して行っているので、校舎及び屋内運動場については、耐震化率 100%ということになっている。古いが、それなりに手を加えてあるというふうに思っている。
また、屋内運動場のつり天井、照明、バスケットボールのゴールも、順次危険なものは撤去し、対応している。施設面では、できるだけのバックアップはしている。

（9）今後の予定

・次回は、8 月 10 日（水）に開催予定。
・先進地（義務教育学校等）の視察研修の実施を検討している。

（10）閉会